

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付: 2025年4月15日

事業ID: 2024006662

事業名:栃木県那須塩原市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営と車両整備
(最終年度)

团体名: AppleBase

代表者名:代表理事 磯 翔

TEL: 080-5521-3948

事業完了日: 2025年3月31日

■ 契約時	
事業費総額	17,560,000 円
自己負担額	3,520,000 円
助成金額	14,040,000 円

箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時	
事業費総額	18,426,903 円 収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	4,386,903 円 収支計算書の緑のセルの値
助成金額	14,040,000 円 収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	0 円 (収支計算書の青のセルの値)

1. 事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じられている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。

なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数記載頂いて構いません。

■ 專業內容 1

(1) 助成契約書記載の事業内容(予定)

【事業内容】

① 日本橋区須賀町地区における「子ども第三の居場所」ミニニテモニールの運営
 (1) 期間：2023年4月1日～2023年3月31日（週5日、14時から20時まで開所）
 (2) 場所：楠木児童館（須賀町）
 (3) 対象：20歳以下、保護者と児童に接遇を施す小・中学校低学年を主とし、市内児童館等と連携しながら、子どもたちの生活環境形成や学童放課後上を支援すること、社会参加の促進を目的とする。今まで児童館利用または学習塾や学童放課後活動のノウハウを活用して運営する。また、利用者の増加に伴いウツテツツの環境を設置する加工工モノを充実させる。
 ② 日本橋区須賀町地区における「子ども第三の居場所」ミニニテモニールの専用設備
 (1) 設備：卓間、兼用1台
 (2) 設備状況：利用児童の送迎のための事情
 (3) 定員：8名

① 日本橋区須賀町地区における「子ども第三の居場所」ミニニテモニールの運営
 (1) 期間：2023年4月1日～2023年3月31日（週5日、14時から20時まで開所）
 (2) 場所：楠木児童館（須賀町）
 (3) 対象：20歳以下、保護者と児童に接遇を施す小・中学校低学年を主とし、市内児童館等と連携しながら、子どもたちの生活環境形成や学童放課後上を支援すること、社会参加の促進を目的とする。今まで児童館利用または学習塾や学童放課後活動のノウハウを活用して運営する。また、利用者の増加に伴いウツテツツの環境を設置する加工工モノを充実させる。
 ② 日本橋区須賀町地区における「子ども第三の居場所」ミニニテモニールの専用設備
 (1) 設備：卓間、兼用1台
 (2) 設備状況：利用児童の送迎のための事情
 (3) 定員：8名

(3) 成功したことの要因

追加工事としてラッドデッキの屋根などを設置し、過ごし方の幅が広がりより児童が過ごしやすい環境を提供することができた。

(4)失敗したことの要因

特記事項なし

(5) 專業內密詳網

施設の加工事や車両整備を実施できたことでより多くの児童へリーチできる幅が広がった。また、施設の中での過ごし方を工夫することができた昨年度と比較し充実した時間を提供することができた。設備や車両の快適性が向上したことで児童、そして保護者の満足度にも繋がって信頼関係の構築にも繋がった。

2. 契約時事業目標の達成状況:

(1) 助成契約書記載の目標

【目標】

- ・2025年3月31日までに 一日平均利用児童数を 30名にする
- ・ホラソテイア等の地域住民や、行政、学校との関係構築
- ・子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に 12回実施する

(2) 目標の達成状況 [700文字以内]

入力文字数	227	文字数チェック	OK
-------	-----	---------	----

【日標】

- ・2025年3月31日までに 一日平均利用児童数を 30名にする
 - 1日の平均利用児童数を 30名を達成することができた。
- ・ホラソテイア等の地域住民や、行政、学校との関係構築
 - 定期的に学校訪問やイベントを通して地域住民との関係構築の機会を設けた。行政との関わりが利用児童のケース会議にも出席した。
- ・子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に 12回実施する
 - 宿泊学習などのイベントを定期的に実施することができた。

3. 事業実施によって得られた成果

2025年8月頃には登録児童数が80人を超えると見込まれる。
2025年9月には一般家庭児童と困難家庭児童が7:3の割合になると見込まれる。
2026年4月には地域の幅広い児童の受け入れ先と認知され、行政や関連施設との連携が実装され、より官民連携施設の連携が確立されると見込まれる。

4. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

地域のニーズに応じた支援を実現するためには、保護者や家族が気軽に相談できる環境を整えることが重要だと感じた。具体的には、支援を必要とする人が自身の状況や要望を伝えやすい仕組みをつくり、それに基づいて柔軟に対応できる体制を構築する必要がある。また、地域の学校や福祉機関と連携を強化し、情報を共有しながら支援の幅を広げることも大切である。こうした取り組みによって、地域全体でより充実した支援を提供できると考える。

5. 事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

- 【成果物】
- ・建築物(写真等)
 - ・車両(写真等)
 - ・事業報告(2回/年)
 - ・活動、イベント、意見交換等(SNS・HP更新随時)
 - ・拠点案内パンフレット(A4三つ折り)



(2)事業完了時の成果物名称

- ・建築物(写真等)
- ・車両(写真等)
- ・事業報告(2回/年)
- ・拠点案内パンフレット(A4三つ折り)状況

(3)未作成となった要因

- ・活動、イベント、意見交換等については事業報告書にてまとめたため随時に更新は実施しなかった

(4)成果物を登録したウェブサイトの URL

<https://fields.canpan.info/report/detail/32536>
<https://fields.canpan.info/report/detail/32542>
<https://fields.canpan.info/report/detail/32537>